

橿原公苑再整備の目指すべき姿

- スポーツは、多くの県民が多様な親しみ方(「する」「観る」「ささえる」「交流する」「感動する」「育む」等)ができるとともに、賑わいや交流の創出等の多様な役割を担う
- 橿原公苑再整備により、スポーツ振興を更に推進し、「健康長寿の奈良県」、「持続可能な地域社会」を実現する

橿原公苑再整備の基本コンセプト

スポーツを通じた個人や社会の持続可能な幸福の創出

橿原公苑活用方針

アリーナ・武道施設に求める機能

陸上競技場に求める機能

野球場に求める機能

【活用方針①】 誰もが、いつでも、どこでも
スポーツに親しめる環境づくり

- ・ 多種多様なスポーツや運動に取り組むことができる
- ・ 人々が快適にスポーツに取り組むことができる
- ・ ユニバーサルデザイン等の考え方に基づいた誰もが自由に利用できる

【活用方針②】 県民スポーツの「拠点」としての
役割の継承

- ・ 各種屋内スポーツの県大会の開催に適した広さを確保
- ・ 様々な武道ができる環境を確保

- ・ アマチュア競技者を対象とした大会開催が可能
- ・ 選手が競技等に集中できる競技環境を確保

- ・ 全国高等学校野球選手権奈良大会の会場としてふさわしい公認野球規則の寸法を準拠

【活用方針③】 プロスポーツ等による
地域の盛上げ

- ・ プロスポーツ(Bリーグ、SVリーグ)の基準に適合
- ・ 「観る」スポーツの魅力を高め、夢や感動、興奮を体験

- ・ 人々が夢や目標を持つきっかけとなるトップアスリートが参加するイベント等を開催

- ・ プロ野球2軍戦・社会人野球・大学野球リーグ等の試合会場にふさわしい公認野球規則の寸法を準拠
- ・ 「観る」観客の快適性を確保

【活用方針④】 地域の多彩な賑わいや交流の創出

- ・ 各種プロスポーツや全国大会等の開催により人々が集い、交流
- ・ 県民の文化活動や各種イベントの開催により人々が集い、交流

- ・ 多様なプログラム(ナイトラン等)を通じて、日常的に人々が地域に集い、交流

- ・ 全国高等学校野球選手権奈良大会やプロ野球2軍戦等の開催を通じて、地域に人々が集い、交流

【活用方針⑤】 持続可能な公苑運営と社会基盤の
整備

- ・ 維持管理・運営の視点からも最適化
- ・ 災害時に地域住民等の安全や安心を支える

◆檜原公苑再整備基本構想(概要版)

新施設(アリーナ及び武道場・弓道場)の規模・機能について

導入機能	機能・諸室	基本的な考え方
メイン アリーナ	競技床	国スポ基準に準拠したバスケットボールコート3面以上の競技床面積(2,500㎡以上)を確保
	観客席	Bリーグ、SVリーグ基準に準拠した5,000席以上(固定席、可動席、仮設席の合計)の観客席を確保
	ホスピタリティエリア	Bリーグ、SVリーグ基準に準拠したラウンジ席や個室席等を確保
サブ アリーナ	競技床	バスケットボールコート1面以上の競技床面積(1,000㎡程度)を確保
	観客席	類似施設を参考に300席程度の観客席を確保
主道場	競技床	国スポ基準に準拠した各競技試合会場4面以上確保できる競技床面積(1,000㎡程度)、観客席(300席程度)を確保
副道場	競技床	国スポ基準に準拠した各競技試合場2面以上確保できる競技床面積(約500㎡)
弓道(近的)	射場・選手控室・的場等	類似事例を参考に国スポ基準の12人立ち、観客席(100席程度)を確保
弓道(遠的)	射場・選手控室・的場等	類似事例を参考に国スポ基準の6人立ち
共用	トイレ・ベビールーム	Bリーグ、SVリーグ基準に準拠したトイレ、ベビールームを整備
	更衣室・シャワー室	Bリーグ、SVリーグ基準に準拠したシャワー室やトイレを備えた更衣室(2室以上)を整備
	会議室・控室等	各種競技大会の運営者や審判、ボランティア等が利用する会議室、控室を整備
	トレーニングルーム	県民の運動利用やアスリートのトレーニングに対応できる機能を確保
その他	管理事務室、機械室、通路等	エントランスホールや管理者用の事務室、各種機械室等、必要な機能を整備
文化機能		持込機材スペースの確保と仮設電源への対応、諸室を活用した控室等、コンサートやイベントを開催できる機能を具備
防災機能		物資の搬入・搬出をしやすい開口や鋼製床による競技床の強度の確保等、支援物資保管庫として活用できる機能を具備
施設整備における留意事項		省エネルギー化や再生可能エネルギー設備(太陽光パネル等)の導入、県産材の積極的な利用、LCCの低減等について検討

既存施設(陸上競技場、広場、野球場)の改修について

【主な改修内容(陸上競技場・多目的広場)】

- ・バリアフリー化(車いす観客席の増設 等)
- ・トラック、インフィールドのリニューアル
- ・多目的広場の練習用走路整備
- ・競技場照明のLED化
- ・メインスタンドの長寿命化、観客席の美装化
- ・トイレ、更衣室、役員室等諸室の美装化
- ・多目的広場の練習用走路整備

【主な改修内容(野球場)】

- ・バリアフリー化(車いす観客席の増設 等)
- ・外野グラウンドの拡張(「公認野球規則」に準拠)
- ・外野人工芝の張替え
- ・防球ネットの新設、増設
- ・スコアボードの更新、グラウンド照明のLED化
- ・メインスタンドの長寿命化、観客席の美装化
- ・トイレ、更衣室、審判員室、記者室等諸室の美装化

◆ 橿原公苑再整備基本構想(概要版)

概算工事費について

項目		概算工事費(税込)	備考
新アリーナ工事費用①		約200億円	(②+③)
内訳	新アリーナ工事費②	(約135億円)	
	武道場・弓道場工事費③	(約65億円)	※木質化をする場合
野球場改修工事費用④		約20億円	
陸上競技場改修工事費用⑤		約30億円	
概算工事費(合計)		約250億円	①+④+⑤

- 次の項目については別途計上が必要。
- ・ 既存駐車場、庭球場等の解体費用
 - ・ インフラ関係の整備費用(上下水・ガス等の切り回し工事が必要な場合)
 - ・ 建築に附帯しない土木外構整備費用
 - ・ 調査、設計・各種申請、工事監理費用
 - ・ 備品調達費用 等

事業スケジュール(案)について

施設	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)
新アリーナ	基本 計画	基本・実施設計		建設工事			国 スポ ・ 全 ス ポ 大 会 開 催
陸上競技場		改修 設計	改修 工事				
野球場		改修 設計		改修 工事			
公苑全体		予備 設計	詳細 設計			改修 工事	
既存施設 (第一体育館)		解体 設計	解体工事				

◆ 新アリーナ整備予定地



- 新アリーナ整備予定地(医大新駅西側)面積
合計 約30,000㎡
- ・ 県有地 約13,000㎡
 - ・ 市有地 約17,000㎡